

市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
田川地区開催報告

日時：令和5年7月4日（火）午後4時30分～6時
場所：田川公民館 大会議室
テーマ：未来を見つめて ともに歩むまち 田川地区
参加者：29名（市長、食品・生活衛生課長、環境・地域エネルギー課主査、田川地区まちづくり協議会3名、たがわ水辺を守る会3名、学校法人未来学舎専門学校未来ビジネスカレッジ（ペットビジネス学部）6名、傍聴者11名、地域づくりセンター職員3名）

【懇談内容】

1 田川地区まちづくり協議会の活動について

(1) 田川地区まちづくり協議会の概要

田川地区まちづくり協議会は、平成30年に発足。現在の構成団体は13団体、評議員の定数は35名。少子高齢化・人口減少に対して、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が参加し、住民が一体となってまちづくりに取り組んでいる。

(2) 主な活動と取組み

社会福祉協議会や福祉ひろばと連携し、①楽育事業推進部会（子供）、②サロン事業推進部会（高齢者）、③健康と福祉のまちづくり推進部会、④防災対策検討部会、⑤自然環境検討部会の5つの部会を中心に活動している。今年の夏には、田川地区全体の行事として、「ぼんぼん・青山様の集いと夕涼み」の開催を4年ぶりに計画している。

<市長>

先週、中央地区の懇談会があった。中央地区でも、ぼんぼん・青山様が、新型コロナのためしばらくできなかった。コロナの影響ばかりでなく、地区としても、このまま放っておくとなくなってしまうような感じで、何とか復活したいということだった。島立地区でも、やはりこのぼんぼん・青山様を独自にやろうという話があった。すでに単位町会ではできない町会もたくさんある。

特に町場の地区の町会で、ぼんぼん・青山様の行事を続けていく環境を作るのは、いろんな地域づくりを行っていくうえで、大きな試金石になるのではないかな。できれば地区を超えて、共同でこのぼんぼん・青山様を行っていく取組みを考えてもらうことも必要かと思う。同じ松本市でも町場と村部とでは少し文化的背景が違うところがある。子供たちのつながりをひとつのきっかけとして、次の世代へつなげていこうという取組みは必要だと思う。ぜひ、今年も取組みをつなげていただけたらと思う。

（まちづくり協議会）

巾上地区では、ぼんぼん・青山様が町会単位でできず、巾上地区全体で行っている。

渚地区はマンションなどが増え人口が増加しているが、巾上地区は人口が減っている。いわば「限界町会」となっている。もともと巾上町町会は、テナント（お店）が多く行事もなかなかできない。それが4町会集まって、皆で何とかやっている。

私が小さいころは子供もたくさんいたので、青山様も元気よくやっていた。こういった行事は、どうしても残したい。今回は、ぼんぼん・青山様をやるにあたって、田川地区全体の皆さんに公民館に集まってもらって、一つのよい思い出としてできるのではないかな。こういう行事はぜひとも残したい。

（まちづくり協議会）

渚本郷町会は全体で279世帯。そのうちマンションの世帯数が205世帯あり、全体の74パーセントを占める。最近できた75世帯くらいのマンションは町会に加入していないので、もしこのマンションの方が加入するとすると、8割以上がマンションにお住まいの方ということになる。

最近、独居高齢者に、民生委員の方と一緒ににおにぎりを配って歩いた。建築後30数年たっている、一番老朽化した大きなマンションがあるが、例えば50歳代の頃にマンションに入られたとしたら、皆さん80歳になっている。最近、マンションに一人で住んでいる方が亡くなってしまっていたが、2週間ほど発見することができなかったという事例もあった。一方で、そういうマンションの方が、年2回の河川清掃などの時には、一番の若手として出てきていただいている。

また松本駅周辺でマンション建設の計画があるとか、渚地区でも新たなマンション建築が行われている。マンションの方も町会に入って、町会活動に参加してもらえよう、市からも後押しをしてもらえればいいと思う。ぼんぼん・青山様の関係でいうと、子供もマンション関係の人が一番多く、中心になって頑張らせていただいている。マンションの方も、ぜひ町会活動に参加していただけたらと思っている。

<市長>

松本駅周辺の土地の利用状況を考えた時には、一定程度、人が集まって住むというマンションという形態が有効だと私は考えている。もちろん場所、景観との兼ね合いを考えていかなければならないし、一つの世代がまとまって、次の世代に引き継がれなくなってしまいうリスクを、緩和する手立てをしっかりと考えていかなければいけない。

第二地区の小池町にはマンションが南北に3つ建っている。町会に加入する方は、やはり少ない。子供の行事には、子供はもちろん保護者も参加するが、町会に加入することには少し抵抗があるようだ。

第二地区の小池町の町会の皆さんの一つのアイデアとして、ワンクッションおくというか、町会とは別に「小池町クラブ」というものをもう一つ作っている。町会で、深志神社に舞台を持っているので、天神様や四柱神社のお祭りの時に舞台を出す。その舞台を維持したり、子供が行事に参加したりする。そこだけ参加してくださいというような、中二階みたいな組織を小池町は作っている。町会としては、とりあえず、まずは舞台で子供たちを楽しませることは、一緒になってやりましょう。町会になぜ足踏みされてしまうのか、何が変われば町会に参加してもらえるのか、というところに進もうとしているが、難しく、まだそこまでは行っていない。

でも、子供のためという気持ちは皆さんお持ちなので、そこをスタートラインとしながら、町会にはごみの問題とか、防災体制の問題とかもあるので、地域で支えあってやっていこうと。子供の行事を通して、今の世代に理解を得られるようなアプローチを進めていくというのが、一つのやり方だと感じている。

マンション住民が7割を占めるというのであれば、その人たちに参加してもらえない町会には持続可能性はないだろう。まだ現役世代の方も多いうし、ほんぼんと青山様の取組みを一つの取っ掛けにして、町会に入っている先輩方と入っていない次の世代の皆さんとの接点を増やすキッカケとしていただきたい。これからも同じような状況の町会が増えていくと思う。そのモデルケースとして、渚本郷町会の町会運営を私たちも注目し、他の地区にも橋渡しをできるように考えていきたい。

(まちづくり協議会)

少子化が一番の障壁となっている。「松本ぼんぼん」という大きな祭りがあるが、町会がどうのというのではなく、松本地区全員参加のちょうちん行列などをやって、松本市全体の伝統文化として継承してってもらったらどうかと思う。青山様は、私たちの町会でも立派なお神輿があるが、どうやって活用していったらよいか。今考えているが、これだというものはない。

先ほどの話にもあったが、マンションの子供さんたちにその担い手になってもらう。問題は次の世代の子供さんたちが、どれだけ確保できていくかということ。伝統文化としては残したいが、どうやって継承していくか。私たちの次の役員にも課題として残っていくことと思う。

2 たがわ水辺を守る会の活動について

(1) たがわ水辺を守る会の概要

田川地区は3河川（田川・女鳥羽川・奈良井川）に囲まれ、小さな水路も多い、水辺の多い地区である。

たがわ水辺を守る会は、①生物多様性のための環境保全・調査（ホタル調査）、②川などで生き物観察会の実施、③田川小学校の環境学習の講師等を行っている。

(2) 主な活動と取組み

- ア ホタル調査（両島川、長沢川他）
- イ 両島川生き物観察会
- ウ 田川小学校「生き物自然観察クラブ」支援

(3) 感想・問題点

- ア 雑草や虫たちも生態系の一部であり、共生感覚をもつべき
- イ 小学校低学年から生き物と触れる環境学習の導入が必要
- ウ 環境学習時、子供たちの安全を守る備品（ライフジャケット等）の確保

<市長>

「川に入ろう」ということを、小学校低学年から、田川小学校の子供たちがすでに実践している。川に入って生き物を観察することから、河川を守るための清掃までつながっているという。松本の小学校のモデルとして、教育長に進言したい。

また、ライフジャケットをはじめとした、川に入るために必要な装備についても、河川に囲まれた田川小学校での立ち上げを、ぜひスタートさせたいと思った。

ホテル観察で看板をたてたことによって、環境に詳しくない人でも、そこに足を運んで観察できるという状況が作られている。

(水辺を守る会)

5年前のライフジャケットの購入は、笹川財団の補助金を利用した。今年はまた別の財団から、40着新規に購入する予定。

<市長>

環境・地域エネルギー課の職員も来ているので、この夏、ぜひホテル観察会を市民の皆さんに紹介してほしい。

(水辺を守る会)

この会の目的は、田川地区の自然環境を守って、生物や植物の環境を守っていこうということだった。だが、やってみると非常に奥深いものがある。皆さんが水の怖さを知って、自然の大切さを知ってもらえたらと願い、事業を進めている。

(水辺を守る会)

家人と一緒に河原のごみ拾いをしている。松本市でも月に一度とか、イベントみたいな形でもっと呼び掛けてもらえれば、河原はさらにきれいになると思う。子供たちも川に行きやすくなるし、水場に下りやすくなると思う。最近、川の構造として、水場に下りやすい場所がだんだん少なくなっている気がする。水に親しむという意味では、行きやすいところとなるよう環境整備をしてもらえると、子供たちの親しむ機会がもっと増えていくと思う。

<市長>

先日の松本市議会で、河川一斉清掃のことが取り上げられた。今、参加する人たちが非常に少なくなってしまい、特に草刈り作業に携われる方の数が少なくなっている。お年寄りには難しいと、議会でも指摘が出た。今、もっと日常的なごみ拾いと、参加する人のすそ野を広げて、頻度とか、私たちのPRの在り方とか、新しく考える必要があるのではないかという問題提起をしていただいた。どういう形が適切なのかということを受け止めさせていただきたいと思っている。

(環境・地域エネルギー課)

草を刈るということは、川に住んでいる生き物にとって必ずしもいいことばかりではない。そもそも河川に対して何をしていくことが最も良いのか。私の立場としてはそのような点も指摘していくことができると思う。川は多くの生物のすみかになっているため、ごみを捨てないようにという啓発もやっていければと思う。そういった点でご協力できればと思っている。

3 ビックパウクラブが繋げる地域の輪

(1) 専門学校未来ビジネスカレッジの紹介

未来学舎 未来ビジネスカレッジは、8つの学科を有する総合専門学校である。令和6年には県内唯一の動物専門学校として『信州松本動物専門学校』を開校。成長するペットビジネスに対応できる人材育成を目的とする。

(2) 主な活動と取組み

- ア ペットビジネスに関わる人材育成(愛玩動物看護師、ペット美容トリマー等)
- イ ビックパウクラブの活動(地域で飼っている犬を借りて実習を実施)

(3) 今後の課題

- ア 飼い主へ適正な動物の飼い方の啓発
- イ ビックパウクラブ活動を通じた地域貢献

(食品・生活衛生課)

松本市が中核市となり、独立して保健所を持つようになった。現在、松本市としての動物愛護の基本的な方針を作っていくと動物愛護管理推進懇談会を開催し、基本方針を検討いただいている。MIT(未来ビジネスカレッジ)のペットビジネス科は、長野県で唯一の動物系の専門学校ということで、8名の委員の中にMITの先生方もメンバーに入っただき、いろいろな助言や意見を頂戴している。

私どもがいつも思っているのは、一番は、動物の正しい飼い方がわかっていない飼い主がすごく多いということ。啓発はなかなか難しく、一朝一夕にはいかない部分もある。動物にかかわるプロフェッショナルとして、獣医師の元で愛玩動物看護師として医療に従事したり、トリミングサロンで飼い主の方と触れ合ったり、動物のケアをやっていただく中で、ぜひ皆さんから飼い主に動物の正しい飼い方を教えていただければありがたい。ビックパウクラブは私もお世話になっていた。皆さんの初々しい接客が非常に新鮮で楽しかった記憶がある。

普及啓発については、小さい頃から教えることが大事だと、ずっと個人的に思っていた。先ほども、水辺を守る会から指摘があったが、小学校低学年でのアプローチがここでも生きてくると思う。生き物についての話を聞いたり、触ったりということは、小学校低学年でないとダメなんだとおっしゃっていた。生き物に対する動物愛護の思想の醸成も含めて、人と人とのかわりを学んでもらうということからいうと、小さな子供へのアプローチも、保健所としてこれから考えていかなければならないと思う。

<市長>

先ほどは川、水辺の生き物。今度はペットという、いろいろな点では異なるが、長野県唯一のペットに関する専門学校が田川地区にあることは、今日の大きな接点というか、自然と動物をもう一度見直そうとか、子供たちの教育ステージの中に組み込もうということでは、そうした学校があるということが、プラス効果を広げていけるのではと思った。これからも教育現場、学校現場、子供たちと結びつける役割を持つようなことを、ぜひ考えていきたい。

私自身は、松本に来る前、猫を2匹飼っていた。これから年を取っていくにあたってペットの存在というのは大きなものになってくると実感している。自然も、ペットとい

う動物も、人と共生ができる社会にしていかなければならないと思った。

(未来ビジネスカレッジ)

これまで、まちづくり協議会や水辺を守る会の方々の話を聞いてきたが、やはり長野県唯一の動物系専門学校ということなので、それがあるからこそ、人が集まってくると思っている。「学校を使っていただく」ではないが、できることがあればやっていこうと思っている。

(まちづくり協議会)

学校は私の町内にあるが、草刈りもしてもらっている。若手で、ここからここまでと場所を決めて。どうもありがとうございます。

－ フリートーク －

(まちづくり協議会)

うちの町内にペットを飼える市営住宅が一棟ある。現在25世帯入れる住宅の中に、町会に加入しているのは6世帯しかない。ペットの学校もあることだし、皆さんと協力して町会運営を行っていききたいので、ぜひ何かの機会があれば町会に入るよう宣伝してもらえればと思う。

(傍聴者)

国道19号線の拡幅工事が滞っている。用地買収が残っているということは承知しているが、松本の玄関口にあたる場所なので、すごく気にかかっている。松本城の南側の道路や巾上のところは見違えるほどきれいになった。事業に取り掛かったのは、国道19号線が一番早かっただけに、残念に思っている。

<市 長>

国道19号線の4車線化については、ようやくという言葉もつかえないくらい、20年以上、違和感を覚えるような状況が続いてきた。ようやく、落合橋の工事に着手し、この区間（渚1丁目交差点から北）は工事が進んでいる。

道路は「用地取得が命」みたいなところがあって、その目途がつけば予算もついて、何年かのちには工事になる。その一歩手前のところで滞ってしまっている。建設部の職員も汗かいて何とかしようとしているので、理解というか、もう少し見守っていただければと思う。

(まちづくり協議会)

町内公民館の建て替えをしたいが、この数年で建築単価がおそろしく上昇してしまった。市からの補助は、取壊しに200万円、建築に1千万円となっているが、増額していただくようお願いしたい。

<市 長>

公民館だけでなく、いろいろな公共施設を建設するにあたり、建築資材の高騰により予算額が非常に増えるという状況になった。30年続いたデフレがインフレとなり、ずっと求めてきた物価上昇率2パーセントという、ゆるやかなインフレ社会を目指して動き始めたのが、今の経済の状況だ。それを見据えた様々な制度設計の見直しが必要になってくる。町内公民館の補助についても、水準とか金額について、デフレからインフレに変わっていく局面で、ではどうしていくかという議論をしていく必要があると思っている。

(未来ビジネスカレッジ)

最近、道に落ちていたクッキーを犬が食べて死んでしまうという悲しい事件があった。松本市として、動物たちに対して、何か活動を行う予定はあるか。

(食品・生活衛生課)

その話は承知しているが、それが起こった場所や当事者は隣市だったので、松本市としては直接関与していない。飼い主として、散歩中に拾い食いをさせないことが必要。今の時期は雑草に除草剤をまくので、それをなめた犬の体調が悪くなってしまうということもある。ぜひ皆さんからも、飼い主にそのような情報提供をしていただければありがたい。

－ おわりに －

<市長>

3つの団体から活動報告をしていただき、今、私たちが取り組まなければいけない、いくつかの提案をいただいた。

田川地区の特色、河川に囲まれた水辺の点在する地区、その良さと、もちろん課題と裏腹になると思うが、ぜひ河川に囲まれ水辺が多いということ、田川地区がこれからも次の世代に引き継がれていくために、最大限、皆さんで利用をしていただきたい。我々は、そのための下支えをしていく。

特に子供、学校現場と皆さんの活動をつなげていく役割を、市役所なり教育委員会なりがしっかり取り組んでいこうと感じた。そのための財源、予算というものをどのように全体の中で手当てをしていくか。話を聞く中で、あらためて検討していきたいと思った。

日本全体では、人口が8千万人を割り込むことが、なかなか避けがたい状況だとみられている。松本は人口定住化ということで、何とか、松本市全体では人口が大きく落ち込まないように、子供、教育をはじめとした施策を展開しようとしている。それも、それぞれの地域の特色を生かしたまちづくり、地域づくりというベースがあってこそ。

どうか田川地区が元気で、活力をもって子供たちとまちづくりが続けていけるように、これからも皆さんの活動をよろしく願いたい。本日はありがとうございました。